

B

2

高等学校への出張講義により次代の後継者育成に向けた土壌を醸成

## 茨城県菓子工業組合

住 所	〒310-0913 茨城県水戸市見川町2139番地の5		
U R L	<a href="http://www.ibaraki-kashi.com/">http://www.ibaraki-kashi.com/</a>		
設 立	昭和41年2月	主 な 業 種	菓子製造業
組 合 員 数	118人	出 資 金	非出資

## ■背景・目的

当組合は昭和41年2月に組合を設立し、組合員数1,000人超にまで伸長したが、国際化による激しい市場競争、景気低迷、高齢化、後継者不足等を背景に廃業が続き、現在の組合員数は118人である。後継者や技術者の不足により、今後も組合員の減少が懸念される中、茨城伝統の和菓子や地域の和菓子文化を後世へ残していくためにも、次代を担う学生に対する和菓子文化の伝承・後継者の育成の機会が必要であると考え、組合では実業高校、特に農業高校の食品関係学科及び製菓専門コース等において、外部講師(組合員)を活用した製菓実習の実施を要望してきた。

## ■取組みの手法と内容

令和2年度に県立鉾田第二高等学校の製菓・製パンコースに和菓子実習課程が設けられることになり、講義や実技指導を通じて、製菓の楽しさや和菓子文化の魅力、作法等を高校生に体験・理解してもらい、ひいては将来的に業界の担い手となる人材を育成することを目的に、組合員による製菓実習を実施することとなった。

学校の年間授業計画に支障をきたさないよう実習カリキュラムを設定する必要があり、学校側と事前協議を行いながら準備を進めた。組合内部においては、組合員がそれぞれ店舗の通常業務を抱える中、講師派遣に協力できる組合員を確保できるかが懸念されたが、理事長の主導のもと役員や青年部長から本事業への理解とスムーズな協力を得られ、講師要員を確保できた。その上で、講師となる組合員の選定や実習テーマ・内容等を協議決定していった。年間授業計画に合わせ5回の実習カリキュラムを組み、1回目/7月「製餡」⇒2回目/9月「おはぎ」⇒3回目/10月「大福」⇒4回目/11月「栗饅頭」⇒5回目/1月「桜餅」のテーマにて実施した。

また、全国菓子工業組合連合会青年部が高校生を対象に開催する「全国和菓子甲子園」では、第11回大会にて初めて県内高校から2作品応募があった。本県から応募する高校生が増えるよう、組合では製菓実習を通じて後継者の育成・技術の伝承に引き続き取り組んでいきたい。

## ■成果とその要因

受講生徒の中から、講師を担当した組合員企業への就職希望者が出た。高校生が進路を選択するにあたり、いくつかの組合員事業者と交流した経験や組合員の菓子に対する情熱・技術を目の当たりにしたことにより、将来ビジョンが明確になったためと考えられる。

今後、業界の将来を担う人材育成に対し組合全体の熱意が向上し、県内各地で製菓実習が増えることに期待している。



高校生へ講義をする組合員



製菓実習の様子

労働環境改善・人材確保



業界の担い手となる人材を育成し、和菓子文化とその技術を伝承して業界の発展につなげようとする組合の強い目的意識により、高等学校への出張講義(製菓実習)が実現した。